

Title	アメリカの地域福祉の歴史的展開
Author(s)	増田, 公香
Citation	聖学院大学論叢, 13(2): 151-161
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=493
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

アメリカの地域福祉の歴史的展開

増 田 公 香

A Historical Study of Community Social Welfare in the United States

Kimika NASUDA

Reflecting on the social welfare of community in the United States, we usually focus only on community organization. In this paper, I examine from three aspects of the history of social welfare of the community in the U.S: community organization, social services, and concepts regarding the social selfare. First, I explore the history of community oregonization through Encyclopedia of Social Work.

Second, I look at social services, especially focusing on Title XX, which lead to the Social Services Block Grant (SSBG). Third, I examine concepts such as normalization and empowerment.

I. はじめに

現在の日本の社会福祉の構成を鑑みた時、それは高齢者福祉や児童福祉あるいは障害者福祉といったように問題とする対象とその問題に対するアプローチの方法別にそのマトリックスは構成されていると思われる。その中で、「地域福祉」という分野は地域を対象としたものと必然的に規定されるが、その一方で、「コミュニティーワーク」や「コミュニティー・オーガナイゼーション」といった方法論も存在し混在化している事実は否めない。ましては、コミュニティー・オーガナイゼーションの発祥の地であるアメリカの地域福祉に関しては、それが正確に整理されずに位置づけられていると考える。本論では、以上の事に基き、「地域福祉」の概念を明らかにした後、その構成の下でアメリカの地域福祉の歴史的展開を捉えていきたい。

Key words; Community Social Welfare in the United Staes, Community Organization, Title XX, Social Services Block Grant, Empowerment

II. アメリカの地域福祉の構成

牧里毎治は『地域福祉事典』の中で次のように規定している。「仮に地域福祉を①活動（分野）のレベル、②方法（技術）のレベル、③政策のレベル、④思想（理念）のレベルに設定してみると、次のように実態を把握する事ができるかもしれない。」⁽¹⁾とした上で、「セツルメントやコミュニティー・チェスト（共同募金）といった萌芽形態としてはほとんどが①の活動（分野）のレベルに包摂される」⁽²⁾としている。②の方法レベルの例としては、「コミュニティー・オーガナイゼーションやコミュニティーワークと呼ばれるもの、」としている。「地域福祉活動の広がり組織化技術の革新と普及の結果、政策に反映されるようになったものとしてコミュニティー・ディベロップメントやコミュニティーケアの考え方であるとし、その手法は中央政府や地方政府の地域施策として取りいれられるようになる」⁽³⁾、としている。その上で、「これらが③の政策レベルの類似概念ということになる」⁽⁴⁾、としている。④の思想・理念としての地域福祉とは、「ノーマライゼーションの理念や福祉コミュニティーの概念が該当する」⁽⁵⁾、としている。

以上の事を踏まえた上で、私はアメリカの地域福祉の概念構成を以下のように整理したい。まず、アメリカの地域福祉の萌芽は、19世紀末にヨーロッパから導入されたセツルメント運動や慈善組織化運動（COS運動）に見ることができる。セツルメント運動としてはニューヨークに1886年に設立された近隣ギルドをはじめ1889年にシカゴに設立されたハルハウス等が主たるものとしてあげられる。そしてそれらの活動は20世紀に入り、いわゆるコミュニティー・オーガナイゼーションへと発展していった。つまり、言い換えるなら、それらはコミュニティー・オーガナイゼーションというソーシャルワークの方法論へと展開したといえる。よって、アメリカの地域福祉におけるセツルメント活動等の萌芽期の活動は、いわゆるコミュニティー・オーガナイゼーションといった方法論の萌芽であり又始点として位置づける事ができると考える。③の政策レベルにおける概念としては、前述の分類をもとに考えると、地域における社会資源の供給、つまりソーシャルサービスの展開として捉える事ができるかと考えられる。④の思想・理念としての地域福祉については、ノーマライゼーションやエンパワーメントといった思想・理念が該当するかと考えられる。

この様に見てくると、アメリカの地域福祉に関しては、大きく3つの視点から捉える事ができると考える。つまり、第一は社会福祉実践方法論的視点からの展開で、いわゆるソーシャルワークの一方法としてのアプローチである。第二は、地域における社会資源の供給、つまりソーシャルサービスの展開から見たアプローチである。第三には、思想・理念の視点からのアプローチである。本稿では、以下、この3つの視点から、アメリカの社会福祉の歴史的展開を捉えてみたい。

Ⅲ. 社会福祉実践方法論の視点からみた歴史的展開

まず初めに、アメリカの地域福祉に対する社会福祉実践方法論いわゆるソーシャルワークの視座からその歴史的展開を捉えてみたい。その際、アメリカのソーシャルワークの各々の時代の基軸といえるアメリカソーシャルワーカー協会 (National Association of Social Workers) が出している「Encyclopedia of Social Work」をもとにその歴史的展開を捉えてみたい。一口にアメリカのソーシャルワークと言っても様々な動向があるため、「Encyclopedia of Social Work」が絶対的バイブルとは言い難い。しかしながら、その時代の動向の主流を提示しているものとして捉える事に異論はないと考える。

このような前提の下、「Encyclopedia of Social Work」に基きアメリカの地域に対するソーシャルワークいわゆるコミュニティ・オーガナイゼーションの発展展開の時代区分ができるかと考える。

(1) コミュニティ・オーガナイゼーションの萌芽期

アメリカのコミュニティ・オーガナイゼーションの萌芽は、19世紀末にヨーロッパから導入されたセトルメント運動や慈善組織化運動 (COS 運動) にみることが出来ると考える。セトルメント運動は、1886年にスタントン・コイトによりニューヨークに設立された近隣ギルドや、1889年にジェーン・アダムスによりシカゴに設立されたハルハウスに代表される。その活動は、地域における児童館の建設といった児童福祉活動から貧困者等を対象としたものまで様々な活動が展開された。その結果、1889年には6ヶ所だったセトルメントは1910年までにその数は400にまで膨らんだ。このセトルメント活動は、ソーシャルワークの一方法としてのコミュニティ・オーガナイゼーションとしての明確な位置付けはなされていないが、その後の展開を見るとこれらはその萌芽として位置づける事ができると考える。

(2) コミュニティ・オーガナイゼーション (community organization) の形成期

Social Work Year Book 1 st (1929) ~ 5 th (1939)

まず、1929年に出された初版の Social Work Year Book より 1939年に出された5thまでをコミュニティ・オーガナイゼーションの形成期として捉えることが出来ると考える。1929年に出された初版においては、「コミュニティ・オーガナイゼーション (community organization) という項目があり、それはセトルメント運動 (social settlements) の延長線上に存在しコミュニティに対するインターベンションであることを認めつつも、ソーシャルワークの一方法としての位置付けはなされていない。また、3th (1935年) においては、「Community organization」という概念の存在は認めながらも混乱を与えるため記載を避けている。4th (1937年) においては、コミュニティ・

オーガナイゼーション (Community organization) を「Social welfare planning」として捉えた上でソーシャル・ケースワーク (social case work) とソーシャル・グループワーク (Social group work) との相違は認めながらも明確な定義は行われていない。さらに、1939年に出された5thにおいては、コミュニティー・オーガナイゼーションの記載は全く行われていない。以上のようにみえてくると、Encyclopedia of Social Workの前身であるSocial Work Year Bookの初版から5thにおいては、セツルメント運動 (Social settlement) の延長線上として発展してきたコミュニティー・オーガナイゼーション (Community organization) という概念の存在は認めつつも明確な位置付けがなされていなかったといえる。つまり、コミュニティー・オーガナイゼーションの形成期として捉えることが出来るのではないだろうか。

(3) ソーシャルワークの一方法としての成長期

Social Work Year Book 6th (1941) ~ 14th (1960)

1941年に出された6thにおいて初めて「ソーシャルワークのためのコミュニティー・オーガナイゼーション (Community organization for social work) という表現が用いられ、その呼び名については様々な論議がある」⁽⁶⁾とは断りながらも、ソーシャルケースワーク (social case work) とソーシャルグループワーク (social group work) と同様ソーシャルワークの一方法としてのコミュニティー・オーガナイゼーションを位置づけている。その背景として1939年と1941年に出されたレイン報告 (Lane R. P. Report) が大きな役割を果たしている。つまり、それ以前においては専門のソーシャルワーカーたちはコミュニティー・オーガナイゼーションの存在意義を認めながらも、あまりにもその科学的根拠が無かったため概念の存在の明確化がなされなかった。しかしながら、2回にわたり出されたレイン報告によりコミュニティー・オーガナイゼーションの概念の明確化がなされ、それによりコミュニティー・オーガナイゼーションがソーシャルケースワーク (social case work) やソーシャルグループワーク (social group work) とともにソーシャルワークの一方法としての位置づけが明確化されていったと考えられる。その後、1949年に出された10thより表現方法が「Community organization for social welfare」と変化しているが、その内容はやはりソーシャルケースワーク (social case work) やソーシャルグループワーク (social group work) とともにソーシャルワークの一方法として位置づけられている。

(4) 新たな変動期

Encyclopedia of Social Work 15th (1965) ~ 17th (1977)

1965年に出された15thより「Social Work Year Book」から新たに「Encyclopedia of Social Work」とその名称を変え、またラッセルセージ財団 (Russell Sage Foundation) に代わりアメリカソーシャ

アメリカの地域福祉の歴史的展開

ルワーカー協会が出すようになった。その 15th においては、コミュニティー・オーガナイゼーションの歴史的過程の整理は行われているものの、この時期における新たなコミュニティー・オーガナイゼーションの明確な表現は行われていない。また、1971 年に出された 16th においては、「community organization」という記載に代わり「social planning and community organization」という表現となっている。そしてそこでは、コミュニティー・オーガナイゼーション (community organization) には、1) ソーシャルワーク (social work) の方法として、2) 公的扶助計画 (social welfare planning) の方法として、3) ソーシャル・アクション (social action) の方法としてといった 3 つの要素があるとしている。さらに、1977 年に出された 17th においては、16th と同様「Social planning and community organization」という項目で記載されているが特にその内容についての意味付けは行われていない。そして、「ソーシャルワークの分野においてもリサーチ (research) と理論構築が大変関心を持たれている。」⁽⁷⁾としている。また、ジャック・ロスマン (Jack Rothman) は、1968 年①小地域開発 (community development) ②社会計画 (social planning) ③ソーシャルアクション (social action) といった 3 つのモデルの類型化を行った。この様に見てくると、15th より新たに Encyclopedia of Social Work とその姿を変えるとともにコミュニティー・オーガナイゼーションもその内容が変貌しつつある混沌とした変動期に入ってきたといえよう。

(5) マクロ (Macro) とミクロ (Micro) の時代

Encyclopedia of Social Work 18th (1987)

前述した変動期の後、18th において大きな変貌が見られる。コミュニティー・オーガナイゼーション (Community organization) は、マクロ実践 (Macro practice) のスキルとしてプランニング (planning) ・アドミニストレーション (administration) ・エヴァリュエーション (evaluation) とともにその一方方法として位置づけられたのである。つまり、従来、ソーシャルワークにおいてケースワーク (case work) ・グループワーク (group work) ・コミュニティー・オーガナイゼーション (community organization) といった伝統的 3 方法の一方法としての位置づけから大きくその位置づけが変化されたのである。このような変動の背景としては、2 つの理由が挙げられている。1 つは、ソーシャルワークにおける機能の組織化と分割化で、もう一つは 1970 年代から 80 年代における政治的、管理的状況の変貌を挙げている。特に前者については、1970 年代初頭に出現してきたジェネラルソーシャルワーク (general social work) がその引き金となったとしている。

(6) 新たなる発展期～コミュニティー・プラクティスの出現

Encyclopedia of Social Work 19th (1995)

1995 年に出された 19th においてはさらに大きな変化が見られ、18th において記載されていたマクロ実践 (Macro practice) という項目は無くなり、コミュニティー・オーガナイゼーション (Communi-

アメリカの地域福祉の歴史的展開

nity organization) と新たにコミュニティ・プラクティスモデル (Community practice model) という項目が出現してきている。コミュニティ・プラクティスモデルは次の8つの基本的なモデルから構成されている。「①近隣及びコミュニティの組織化 (neighborhood and community organizing) ②機能的コミュニティの組織化 (organizing functional community) ③コミュニティの社会的経済的発展 (community social and economic development) ④社会計画 (social planning) ⑤プログラム開発とコミュニティの連絡調整 (program development and community liaison) ⑥政治的・社会的運動 (political and social action) ⑦連携化 (coalition) ⑧社会運動 (social movement) この8つの基本的モデルを用い、ターゲットとする問題に対して1つのモデルを用いてのみアプローチするのではなく、複数のモデルを複雑に組み合わせ相互機能・作用させ実現化を図る」⁽⁸⁾としている。

Ⅳ. ソーシャルサービスの歴史的展開

次に、アメリカの地域福祉において、地域における社会資源の供給、つまりソーシャルサービスの視点から歴史的展開を見てみたい。

アメリカの地域におけるソーシャル・サービス展開の淵源は、1935年に制定された社会保障法 (Social Security Act) にみることができる。それは、周知のごとく大恐慌のアメリカ社会において個人の生活を連邦レベルで保障するという初めての試みであった。成立時の社会保障法 (Social Security Act) は、タイトル I から X までで構成されており、地域住民に対するソーシャルサービスとしては、主にその中のタイトル IV-A が適用された。つまり、タイトル IV-A が AFDC と共に地域の低所得者に対する金銭給付という所得保障 (income assistance) という形でソーシャル・サービスが展開されていた。

その後、アメリカの地域に対するソーシャル・サービス展開の大きな変換となったのは、1975年に前述の社会保障法 (Social Security Act) に「タイトル XX」として追加された法案においてである。つまり、それ以前は前述したように、タイトル IV A のもとで所得保障 (income assistance) という形でコミュニティにおいて金銭給付が行われていたが、それはあくまでも低所得者のみを対象としたものであり、いわゆる貧困撲滅を目的としたものであったといえよう。だが、低所得者はもとより児童から高齢者あるいは障害を持つ人々等を含めた全地域住民を対象とした包括的ないわゆる「ジェネラルソーシャル・サービス (general social services)」としての概念が生じたのは、このタイトル XX においてである。これにより連邦政府は各州に予算を与え、各州あるいは自治体レベルで地域におけるソーシャル・サービスの展開が開始されるようになった。

このタイトル XX は次の5点をその目的としている。

- 1) 依存を予防・削減・削除するために経済的自立を遂行し維持する

アメリカの地域福祉の歴史的展開

- 2) 依存の削除や予防を含めて自立を遂行し維持する
 - 3) 自分自身の利益・保護・リハビリや家族との再結合を守ることのできない児童や成人の放任・虐待・搾取を保護し救済する
 - 4) 地域ケアや在宅サービスやその他のサービスを提供することにより、不適切な施設ケアを予防したり削除する
 - 5) ケアの他の方法が不適切な時は、施設ケアの紹介・入所を探したり施設サービスを提供する
- 以上の5項目が挙げられている。

つまり、タイトルXXの意義は、単なるソーシャルサービスの供給に留まらず、地域住民に対して自己自立を促進し、また今から20年以上前の時点において「脱施設化」「虐待の予防」等を唱え、地域住民が人間としての権利を十分に保障された上で地域で生活できるシステム作りを構築したのである。

その後、1982年レーガン政権の下、タイトルXXは「ソーシャル・サポート包括補助金(The Social Services Block Grant, 以下SSBGとする)」と名称を変更し、また、各州レベルにおける自由裁量が強化されるようになった。

その結果、現在では様々なサービスが各州レベルで実施されている。

ソーシャルサービス包括補助金により各州レベルで実施されている トップ10のサービス		
順位	サービス名称	実施州の数
1位	児童デイケアサービス (child day care)	47
2位	在宅サービス (home-based services)	46
2位	児童保護サービス (child protective services)	46
4位	障害者に対する特別サービス (special services for disabled)	38
5位	ソーシャルサポートサービス (social support services)	37
6位	養子縁組みサービス (adoption services)	34
7位	ケースマネージメント (case management)	33
8位	成人保護サービス (adult protective services)	32
9位	里親サービス (foster care services)	31

2000年9月30日時点

また、タイトルXXがソーシャルサービス包括補助金(SSBG)へと変わるにあたり、連邦政府に対する報告義務も毎年から2年に1回へと減少され、又各州レベルで自由に補足できるようになった。さらに、各地域の地域住民のニーズが反映されやすいように各州レベルでの自由裁量が強化された。その結果、各々の地域において地域住民のニーズの特徴に見合ったサービス展開が行われる

アメリカの地域福祉の歴史的展開

ようになった。しかしその反面、社会資源の豊かな地域や州と社会資源の乏しい地域や州との間で地域間格差が大きくなっていった。

そのような動向の中、図に見るようにソーシャルサービス包括補助金の連邦政府の負担も、1975年には\$2.5billionありその後1995年の\$2.8billionまでは増加を示してきたが、1995年を頂点に減少してきており、1999年にはなんと\$1.1billionまで激減している。

連邦政府におけるソーシャルサービス包括補助金の予算の変化

1975年	\$ 2.5 billion
1995年	\$ 2.8 billion
1999年	\$ 1.1 billion

2000年5月現在

ソーシャルサービス包括補助金に対する連邦政府に対する負担の激減からもわかるように、今後の動向として連邦政府の各州に対する関わり方つまり経済的補助は著しく少なくなると予想される。その結果、各州の責任が大きくなるのは言うまでもない。

アメリカの地域におけるソーシャルサービス展開の今後の動向としては、本来地域間格差の強いアメリカ社会において、移動可能な生活力を持った人々の移動がより積極的に展開されるのではないかと考えられる。つまり、人種や社会階層により多種多様な人々が存在するアメリカの地域社会において、移動可能な生活力のない人と移動可能な生活力のある人々が存在する。その場合、前者はやはり今後とも移動という事はあまり考えられないと思われる。その一方で、後者は子供の教育や職業の転換さらにはライフステージの変化等といった、いわゆる「家族の特性」に基いた移動という事が積極的に行われている。今後、高齢化が進みより退職後の生活期間が長じるに従い、各々の家族のニーズに見合った形での移動がより活発に展開されると考えられる。

又、2000年11月に1ヶ月以上にも及ぶ歴史上まれに見る大統領選挙の結果、ブッシュ氏が次期大統領として決定した。8年間に渡る民主党政権から共和党政権への移行に従い、今後新たな展開がみられることは言うまでもない。

V. 思想・理念から見た歴史的発展

最後にアメリカの地域福祉において発展してきた思想・理念についてみてみたい。ここでは主に2つの思想・理念についてみてみたい。

まず、はじめに「ノーマライゼーション」という概念である。ノーマライゼーションの理念は、1950年代デンマークのバンク・ミケルセンによって提唱された概念である。つまり、当時知的障

アメリカの地域福祉の歴史的展開

害者の大施設収容という問題に端を発し、障害を持つ人も持たない人も児童も高齢者も一緒に生活することがノーマルであるといういわゆる共存の概念といえよう。この概念にもとづき、アメリカで展開された代表的なものにIL運動（independent living movement）があげられる。それは、1960年代後半から70年代にかけてカリフォルニア州のUCLA校にてある障害を持つ学生が学生寮にて「一学生」として学生生活をおこなったことから発展していった。この概念は、障害を持つ人が主役＝生活主体者とし、自己決定権の行使を自立とするという考え方である。この動きは、その後全世界に広まり障害を持つ人がノーマライゼーションの理念のもと地域社会に一地域住民として生活していくという実現化が展開されていったのである。

次に、「エンパワーメント（Empowerment）」という概念である。1960年代に入ると、アメリカ社会は公民権運動・ベトナム戦争という激動の時代に入っていった。このような動乱の時代背景のもと、殊に公民権運動においてマイノリティーに対する人権擁護におけるソーシャルワークの展開の中で「パワーの無いものにパワーを与え、クライアントが自らの意志をもって問題解決にあたるようにする」⁽⁹⁾といったいわゆる「エンパワーメント（Empowerment）」という概念が生まれ発展していった。近年、日本のソーシャルワークいや社会福祉において、しばしば「エンパワーメント」という概念が用いられるが、その発端は1960年代のアメリカの公民権運動といった地域社会でのマイノリティーに対するソーシャルワークの中から誕生したのである。

VI. ま と め

本論は、アメリカの地域福祉という概念をソーシャルワーク・サービス展開・理念思想といった3つの視点からその歴史的展開を捉えてみた。

本来「地域福祉」という概念あるいはそれが的確に該当する語句が存在しないアメリカの社会福祉に対し、その歴史的展開を振り返るという事は、あくまでも日本の社会福祉の概念分類の視点からそれを捉えたに過ぎずその限界性は自ずと明らかである。またソーシャルワークの視点・ソーシャルサービスの視点・思想および理念の視点といった3視点という概念枠組み設定そのものにも矛盾点はあるかもしれない。しかしながら、その限界性あるいはその矛盾を前提にした上で、アメリカの地域福祉の歴史的展開を3視点から捉えるということは一つの意味ある試論ではないか、と考える。というのは、従来アメリカの社会福祉の歴史イコールコミュニティ・オーガナイゼーションの歴史と捉えられる事が多分にあった。つまりそれは、あくまでもソーシャルワークの視点からの把握に留まり、いわゆる地域におけるソーシャルサービス展開の視点が欠けていたと考える。

現状の日本においても然りであるが、近年の各国の地域社会について鑑みる時、そこではいわゆるジェネラルサービスを前提としたソーシャルサービス展開を抜きに考えることは皆無といって過言ではないと考える。それはアメリカ社会にも同様にいえる事だと考える。以上のような事を踏ま

アメリカの地域福祉の歴史的展開

えると、本論がソーシャルサービス展開をも視点にいれその展開を捉えたことは意味のあることだと考える。

またアメリカの地域福祉の発展過程を前述の3視点からとらえたが、それらは独立した流れではなくあくまでも相互に影響し合い、各々の時代の地域住民のニーズを基に展開していっていると考ええる。

注

- (1) 牧里毎治『地域福祉辞典』中央法規, 1997, pp33
- (2) 同上
- (3) 同上
- (4) 同上
- (5) 同上
- (6) Clarence King (1941). Community organization for social work. Social Work Year Book 6 th. Russell Sage Foundation. Pp128~133
- (7) Jack Rothman and Irwin Epstein. (1977) Social planning and community organization. Encyclopedia of Social Work 17th. NASW. Pp1433~1443
- (8) M.O.Weil & D.N.Gamble. (1995) . Community practice models. Encyclopedia of Social Work 19th. NASW. Pp580~593
- (9) Jack Rothman, John L.Erich eds, "A History of community organizing since the civil war with special reference to oppressed communities" 『Strategies of community intervention (5 th eds)』, Peacock, 1995, pp64~99

参考文献

- (1) Le Roy E. Bowman. (1929) Community organization. Social Work Year Book 1 st. Russell Sage Foundation. Pp100~101
- (2) Community organization. (1933) . Social Work Year Book 2 nd. Russell Sage Foundation. Pp100.
- (3) Community organization. (1935) Social Work Year Book 3 rd. Russell Sage Foundation. Pp86
- (4) Arthur Dunham (1937) . Social Welfare planning . Social Work Year Book 4 th. Russell Sage Foundation. Pp482~487
- (5) Clarence King (1941). Community organization for social work. Social Work Year Book 6 th. Russell Sage Foundation. Pp128~133
- (6) Arthur Dunham (1943) . Community organization for social work. Social Work Year Book 7 th. Russell Sage Foundation. Pp137~142
- (7) Arlien Johnson (1945). Community organization in social work. Social Work Year Book 8 th. Russell Sage Foundation. Pp92~98
- (8) Wayne McMillen (1947) . Community organization in social work. Social Work Year Book 9 th. Russell Sage Foundation. Pp110~116
- (9) Russell H. Kurtz. (1949) . Community organization for social welfare. Social Work Year Book 10th. Russell Sage Foundation. Pp129~135
- (10) C.F.McNeil. (1951) . Community organization for social welfare. Social Work Year Book 11th. Russell Sage Foundation. Pp122~128
- (11) C.F.McNeil. (1954) . Community organization for social welfare. Social Work Year Book 12th. Russell Sage Foundation. Pp121~128
- (12) Campbell G. Murphy. (1957). Community organization for social welfare. Social Work Year Book 13th.

アメリカの地域福祉の歴史的展開

- Russell Sage Foundation. Pp179~185
- (13) Campbell G. Murphy. (1960). Community organization for social welfare. Social Work Year Book 14th. Russell Sage Foundation. Pp186~191
- (14) Meyer Schwartz. (1965) . Community organization. Encyclopedia of Social Work 15th. NASW. Pp177~189
- (15) Arnold Gurin. (1971). Social planning and community organization. Encyclopedia of Social Work 16th. NASW. Pp1324~1337
- (16) Jack Rothman and Irwin Epstein. (1977) Social planning and community organization. Encyclopedia of Social Work 17th. NASW. Pp1433~1443
- (17) Thomas M. Meenaghan. (1987) . Macro practice. Encyclopedia of Social Work 18th. NASW. Pp82~89
- (18) Si Kahn. (1995) . Community organization. Encyclopedia of Social Work 19th. NASW. Pp569~576
- (19) Samuel H. Taylor and Robert W. Roberts eds. (1985). Theory and practice of Community Social Work. Columbia University press.
- (20) Jack Rothman and John E. Tropman. (1995). Strategy of Community Intervention 5 th. F.E. Peacock. publishers.